

高度医療で地域を支える

「低侵襲手術」という言葉をご存じでしょうか。婦人科に限らず手術では、患者さんの体につけた傷から器具を挿入し組織を切開・縫合することに、傷の痛みや臓器へのダメージによる侵襲(負担)を生じます。

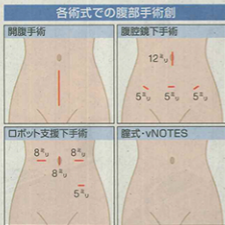
近年ではいかに侵襲の少ない手術を行うかも重要となっており、子宮筋腫や子宮腺筋症、卵巣腫瘍、子宮内腺症や子宮頸部異形成といった婦人科良性疾患に対する手術においてもおなかの傷が「小さい」「またはない」「低侵襲手術が急速に普及しています。



さかて・しんたろう 広島大医学部卒。広島県内の関連病院で研修後、倉敷成人病センターを経て、24年から津山中央病院に勤務。産婦人科専門医・指導医、産婦人科内視鏡技術認定医(腹腔鏡・ロボット)、ダビンチコンソールサージョン、周産期・新生児医学会専門医(母体・胎児)。

⑥ 婦人科良性疾患に対する低侵襲手術について

津山中央病院婦人科部長 坂手 慎太郎



従来は子宮を摘出する際には大きくおなかを切開する開腹手術と、腔から挿入する腔式手術が行われていました。低侵襲手術では手術後の痛みが少なく早期の歩行が可能となり、入院期間が短縮し、術後の回復も早くスムーズに日常生活に復帰できます。

内視鏡カメラを使用した腹腔鏡手術ではカメラで拡大した視野で手術を行うため、繊細な手術操作が可能となり出血量が減少し、臓器へのダメージが減少するといった多くのメリットがあります。また腔式手術はおなかの傷が無いため最も低侵襲ですが、大型の子宮や分娩歴の無い患者さんでは難易度が高くなります。当院では以前より良性疾患に対する腹腔鏡手術を行っていましたが、本年度よりロボット支援下手術、さ



手術支援ロボット「ダビンチX」を用いた手術

らに腫から腹腔鏡手術を行うvNOTES(フイノーツ)を開始しました。腹腔鏡手術ではおへそを約1センチ、下腹部の3か所を5センチ開き、カメラからの画像を見ながら手術機器(鉗子)を操作し手術を行います。腹腔鏡手術ではカメラや鉗子を術者が直接操作しますが、ロボット支援下手術では、患者さんと同じ手術室内のコンソールと呼ばれるコックピットの術者の動きを、ロボットアームを介して鉗子に伝え操作します。手振れ補正や微細操作(モーションスケール)機能、多関節機能と

いった従来の腹腔鏡手術にはない機能によって、より精密な手術が可能となります。

また、vNOTESでは腫に手術器具を装着し、腫から内視鏡カメラや鉗子を挿入し手術を行います。従来の腹腔鏡手術の利点に加え、おなかに傷がないため術後の痛みがさらに軽減され、手術後の癒癒の減少、開腹手術の手術歴がある(おなかに癒癒のある)方での安全性が高いといった利点があります。一方で重症の子宮内腺症のように子宮の周囲に高度の癒癒がある場合や、子宮全摘後の方、性交渉経験のない方ではvNOTESは困難です。

低侵襲手術の対象となる疾患やその重症度、また手術の内容は手術を行う病院や術者により異なり、国内でも地域差、施設差が存在します。患者さんの状況に応じて当院において最も適切と考える術式を選択します。

この数年での産婦人科低侵襲手術の急速な普及には、手術支援ロボットや内視鏡カメラなどの手術機器の開発が大きく影響しています。一方で、新しい機器で安全に手術を行うには医師が専門的な技術・知識を習得し、常にアップデートする必要があります。安全性を最優先に、岡山県北においても患者さんへ低侵襲手術を届けられるよう日々努めてまいります。

津山中央病院(086888111)